

作品集

2025 (令和7年度)



令和7年度家族ふれあい大賞第29回「家庭の日絵画展」

【家族ふれあい大賞 京都府知事賞】受賞作品

「みんなでポップコーン」

京都市立伏見板橋小学校 2年 泉水 信乃さん

小学生対象

令和7年度家族ふれあい大賞
第29回「家庭の日絵画展」

主催/京都府 京都府教育委員会 (公社)京都府青少年育成協会

中学生対象

第47回「少年の主張京都府大会」

主催/(公社)京都府青少年育成協会 京都府 PTA 協議会
京都市 PTA 連絡協議会 (独)国立青少年教育振興機構

公益社団法人 京都府青少年育成協会

《京都府青少年健全育成府民運動スローガン》 気づいてる? あなたのまわりの あたたかさ

はじめに

（公社）京都府青少年育成協会では、青少年をあたたく見守り、その健やかな成長を支援し、家庭と地域の輪を育てる健全な地域社会づくりを推進するため、小学生を対象とした「家族ふれあい大賞」・「家庭の日」運動の普及啓発事業、中学生を対象とした「少年の主張京都府大会」の二つの事業を行っています。

令和七年度家族ふれあい大賞・第二十九回「家庭の日絵画展」は、京都府と京都府教育委員会が令和二年度まで実施してこられた家族ふれあい大賞（絵画・写真）事業と当協会が実施してきました「家庭の日絵画展」（令和七年度事業名変更）（「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」）事業を令和三年度から一つの事業に統合し、小学生から見た家族や家庭内での微笑ましいふれあいを絵に表現することを通して、子どもたちの健やかな成長にとって家庭の役割の大切さを再認識することを目的として、京都府、京都府教育委員会と当協会の共催で実施しています。本年度は、八十四校・五四八作品の心温まる絵画の応募をいただき、審査委員会（第一次・最終）で入選二十三点と佳作四十三点を選出し、京都府知事賞には、泉水信乃さん（京都市立伏見板橋小学校二年生）の作品が選ばれました。入賞された作品二十三点及び佳作四十三点による入賞等作品展を令和八年三月から府内二十六箇所で開催します。

第四十七回「少年の主張京都府大会」は、人格を形成する上で重要な時期にある中学生が、日常生活の中で感じていることや考えていることなどを自分の言葉でまとめ、それを「少年の主張」として広く訴える機会を設け、社会の一員としての自覚と行動を促していくことを目的として、京都府PTA協議会、京都市PTA連絡協議会、（独）国立青少年教育振興機構の共催で実施しました。本年度は、三十四校・四三〇九編の素晴らしい作文の応募をいただき、事前の審査委員会（第一次・第二次）で入選十五編と佳作四〇編を選出しました。入選の十五名が令和七年九月十三日に京都市国際交流会館（イベントホール）で開催した京都府大会において主張を発表し、各賞を決定しました。

京都府大会で京都府知事賞に輝いた秦 小羽音さん（亀岡市立育親学園九年生）を京都府代表として、全国大会候補者に推薦しましたところ、第四十七回「少年の主張全国大会」くわたしの主張2025（於／東京）で主張を発表し、国立青少年教育振興機構奨励賞を受賞されました。

御応募いただいた小学生・中学生の皆さんをはじめ、事業の実施に御支援・御協力をいただきました学校や保護者の皆様並びに関係機関・団体の皆様、さらには熱心に作品の審査をしていただきました審査委員の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。

この冊子では、それぞれの事業で入賞された作品を紹介しております。御高覧いただき、小学生の抱く家庭の温かさ、中学生が日頃感じていることや考えていることをそれぞれの作品から感じ取っていただければ幸いです。

そして、これらの事業が応募いただいた皆さんの心の成長の一助となりますことを願いたしますとともに、取組の裾野が広がり、青少年の健全育成の輪が一層広がっていくことを期待します。

令和八年二月

公益社団法人京都府青少年育成協会

会長 上田 静 男

目次

令和七年度「家族ふれあい大賞」第二十九回「家庭の日絵画展」

◇概要	2
◇入賞者、佳作者一覧	3
◇入賞作品	4
◇講評	10

第四十七回「少年の主張京都府大会」

◇概要	11
◇入賞者、佳作者一覧	12
◇入賞作文	13
◇講評	28
◇第四十七回「少年の主張全国大会」内閣総理大臣賞 受賞作文	



令和7年度「家族ふれあい大賞」第29回「家庭の日絵画展」 ～「家庭の日」運動の普及啓発事業～概要

1 趣旨

「子育て環境日本一」の実現に向け、「家庭の日」運動の普及啓発など、京都全体の気運を醸成するため、家庭内での微笑ましいふれあいを絵画や写真に表現することを通して、子どもたちの健やかな成長にとって家庭の役割の大切さを再認識するとともに、子育て応援のメッセージを伝える取組として、作品の募集・発信を行います。

2 主催 京都府、京都府教育委員会、公益社団法人京都府青少年育成協会

3 後援 ともも家庭庁・京都市・京都市教育委員会・京都市市町村教育委員会連合会・京都府小学校校長会・京都市小学校校長会 ・京都府私立小学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞社京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞社京都総局 ・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都(順不同)

4 作品募集(絵画のみ掲載)

- (1)題材 親子や家庭におけるほほえましい雰囲気等を表現したもの。「画題(タイトル)」必要。
- (2)対象 京都府内の小学校及び特別支援学校小学部に在籍している児童。
- (3)大きさ 四つ切(38cm×54cm)、横書き
- (4)画材等 自由
- (5)厚さ 作品は画面から3mm以内であれば盛り上げ、貼り付けを可。
- (6)募集締切 令和7年9月17日(水)(当日消印有効)
- (7)応募方法 ①必要事項を記入した所定の「応募票」(*1)を作品裏面にのりづけして、各学校で取りまとめて、所定の「応募者名簿」(*2)を添付の上、京都府青少年育成協会事務局へ送付。
②個人の方は、直接京都府青少年育成協会事務局へ送付。
*1「応募票」及び*2「応募者名簿」は協会ホームページからダウンロードすること。また、絵画の応募は一人1作品で未発表、自作のものに限る。【HP <http://www.kyoto-seishonen.or.jp/>】

5 審査及び入賞作品等

(1)入賞作品等

【家族ふれあい大賞/3点】

京都府知事賞 京都府教育委員会教育長賞 京都府青少年育成協会会長賞 /各1点

【家庭の日賞/6点】

京都市長賞 京都市教育長賞 京都市市町村教育委員会連合会会長賞 京都府小学校校長会会長賞
京都市小学校長会会長賞 京都府私立小学校連合会会長賞 /各1点

【まいにちがたからもの賞/6点】

京都新聞賞 朝日新聞社賞 毎日新聞社賞 産経新聞社賞 NHK 京都放送局賞 KBS 京都賞 /各1点

【優秀賞/8点】

【佳作/43点】

(2)審査 審査委員会で入賞作品及び佳作を決定した。

(3)①審査委員会審査委員 (50名(順敬略))

上田 静男(委員長)

犬石 剛史 中下 美華 西村 いすみ 藤田 健一 松田 直美 山下 英孝

②最終審査委員会審査委員(50名(順敬略))

小山田 徹(委員長)

作道 雄 永田 紅 水野 哲雄

6 表彰

令和8年2月21日(土)、京都ガーデンパレス「葵」において、入賞者(個別賞)の表彰を行い、会場内において入賞作品の展示を行います。

7 入賞作品展の開催

京都府内26か所(予定)で絵画入賞等作品展を開催します。

8 その他

- (1)入賞作品は、入賞作品等の巡回展示で掲示するほか作品集、家庭の日運動啓発カレンダー、啓発資料等に活用するとともに、協会HPに掲載します。(作品の活用時に、作品の画題(タイトル)及び学校名・学年・氏名を記載します。)
- (2)入賞作品の著作権は、(公社)京都府青少年育成協会に帰属します。



令和7年度「家族ふれあい大賞」第29回「家庭の日絵画展」 入賞者・佳作者一覧

入賞作品は、(公社)京都府青少年育成協会のHPからご覧いただけます。
URL <http://www.kyoto-seishonen.or.jp/>



入賞者

賞	画題(タイトル)	氏名	学校・学年
<家族ふれあい大賞>			
京都府知事賞	みんなでポップコーン	泉水 信乃	京都市立伏見板橋小学校 2年
京都府教育委員会教育長賞	じいじとせいくらべ	河合 ゆり	精華町立精華台小学校 5年
京都府青少年育成協会会長賞	家族7人で大好きな鉄博へ行った	内藤 結葵	京田辺市立三山木小学校 4年
<「家庭の日」賞>			
京都市長賞	かぞくでジェットコースター	瀬口 小晴	京都市立西陣中央小学校 4年
京都市教育長賞	なつまつりのわたあめ!	村松 春樹	京都市立梅小路小学校 3年
京都市市町村教育委員会 連合会会長賞	おじいちゃんとぼくの夏休み	前田 泰佑	城陽市立青谷小学校 3年
京都府小学校校長会会長賞	家族で楽しく海で遊んだ思い出	内藤 愛莉	京田辺市立三山木小学校 2年
京都市小学校長会会長賞	あわじしまのおもいで	稗田 千尋	京都市立明德小学校 1年
京都府私立小学校連合会会長賞	新しい家族がやってきた	阪部 優愛	城陽市立寺田西小学校 3年
<まいにちがたからもの賞>			
京都新聞賞	ひまわりばたけでおさんぽ	笹岡 那月菜 PHAM DANG QUANG (ファム ダン クアン)	南丹市立園部小学校 1年 宇治田原町立宇治田原小学校 1年
朝日新聞社賞	かっこいいシャチだ!!!	大西 紘生 中西 慶一朗 辻本 蓮 橋本 莉子	木津川市立立見台小学校 2年 京丹後市立いさなご小学校 6年 亀岡市立藤田野小学校 2年 精華町立精北小学校 2年
毎日新聞社賞	たのしい! ウォータースライダー	河邊 純羽	京都市立花園小学校 5年
産経新聞社賞	家族全員集合!!	市川 凜	京都市立太秦小学校 1年
NHK 京都放送局賞	かき氷おいしかったなあ	渡邊 水翔	京田辺市立立田小学校 6年
KBS 京都賞	かぞくでたこやきパーティー	三浦 祐衣	精華町立精北小学校 1年
<優秀賞> (順不同)			
優秀賞	夜空の下の家族の時間	羽島 礼扇奈	精華町立精華台小学校 2年
優秀賞	たのしいごはんのじかん	田中 晴稀	精華町立精華台小学校 2年
優秀賞	家族で走ったびわ湖一周の思い出	田中 晴稀	精華町立精華台小学校 2年
優秀賞	みんなでカレーを食べるところ	西井 琳都	相楽東部広域連合立和東小学校 1年
優秀賞	しかがくれた夏のえがお	瀧谷 依里奈	綾部市立物部小学校 3年
優秀賞	みんなでたべるとおいしいな		
優秀賞	かぞく		
優秀賞	明るいかぞく		

佳作者 (順不同)

氏名	学校・学年	氏名	学校・学年
橋口 慧一	京都市立錦林小学校 1年	京谷 洸我	宇治田原町立田原小学校 2年
柱谷 凪咲	京都市立北白川小学校 5年	佐竹 美香	宇治田原町立田原小学校 2年
野村 新夏	京都市立梅津小学校 2年	村山 晴道	宇治田原町立宇治田原小学校 1年
佐藤 瑠佳	京都市立葛野小学校 3年	山口 未紗	精華町立精北小学校 1年
森下 ひかり	長岡京市立長岡第七小学校 5年	井手 汐里	精華町立精北小学校 1年
井上 稀裕	宇治市立御蔵山小学校 2年	松村 昂佑	精華町立山田荘小学校 2年
徳永 凌真	宇治市立北嶺島小学校 1年	新川 光琴	精華町立山田荘小学校 2年
岩本 芽依	宇治市立北小倉小学校 2年	久原 穂穂	精華町立精華台小学校 2年
竹内 優菜	宇治市立大久保小学校 5年	後藤 慶太	精華町立精華台小学校 2年
伴 夏芽	城陽市立深谷小学校 1年	福岡 蒼唯	相楽東部広域連合立南山城小学校 2年
奥森 叶那	木津川市立木津小学校 2年	中川 臣海	南丹市立八木東小学校 2年
稲葉 遥叶	木津川市立高の原小学校 1年	平野 星空	京丹波町立竹野小学校 5年
村上 茜	木津川市立梅美台小学校 1年	吉岡 英汰	綾部市立西八田小学校 4年
今西 凜美	木津川市立梅美台小学校 1年	大田 結葉	福知山市立大正小学校 3年
中川 煌大	木津川市立梅美台小学校 1年	内藤 莉央	舞鶴市立新舞鶴小学校 2年
上村 啓太郎	木津川市立立見台小学校 1年	山口 真凜	舞鶴市立新舞鶴小学校 3年
津田 悠花	木津川市立加茂小学校 3年	山口 蒼衣	舞鶴市立新舞鶴小学校 5年
宇津山 周佑	木津川市立南加茂台小学校 1年	金岩 知己	宮津市立日置小学校 2年
松岡 幸来	木津川市立南加茂台小学校 1年	松本 莉緒	与謝野町立石川小学校 2年
永谷 愛稀	木津川市立上拍小学校 1年	吉川 翔真	与謝野町立三河内小学校 4年
米田 芙美香	久御山町立東角小学校 1年	瀬尾 優奈	京都府立舞鶴支援学校 1年
今西 柚琉	宇治田原町立田原小学校 2年		



—家族ふれあい大賞—

👑 京都府知事賞

「みんなでポップコーン」



京都市立伏見板橋小学校 2年
泉水信乃さん

👑 京都府青少年育成協会会長賞

「家族7人で大好きな鉄博へ行った」



京田辺市立三山木小学校 4年
内藤結葵さん

👑 京都府教育委員会教育長賞

「じいじとせいくらべ」



精華町立精華台小学校 5年
河合ゆりさん



—「家庭の日」賞—

👑 京都市教育長賞

「なつまつりのわたあめ！」



京都市立梅小路小学校 3年
村松春樹さん

👑 京都市長賞

「かぞくでジェットコースター」



京都市立西陣中央小学校 4年
瀬口小晴さん

👑 京都府小学校校長会会長賞

「家族で楽しく海で遊んだ思い出」



京田辺市立三山木小学校 2年
内藤愛莉さん

👑 京都府市町村教育委員会 連合会会長賞

「おじいちゃんとぼくの夏休み」



城陽市立青谷小学校 3年
前田泰佑さん



—「家庭の日」賞—

👑 京都府私立小学校連合会会長賞

「新しい家族がやってきた」



城陽市立寺田西小学校 3年
阪部優愛さん

👑 京都市小学校長会会長賞

「あわじしまのおもいで」

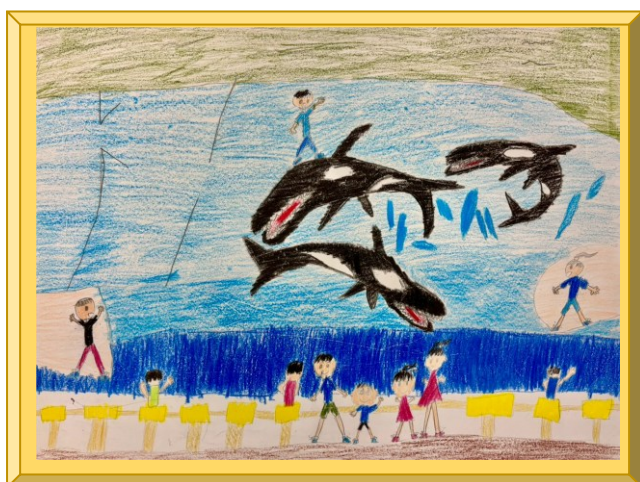


京都市立明德小学校 1年
稗田千尋さん

—まいにちがたからもの賞—

👑 朝日新聞社賞

「かっこいいシャチだ!!!」



宇治田原町立宇治田原小学校 1年
PHAM DANG QUANG さん
(ファム ダン クアン)

👑 京都新聞賞

「ひまわりばたけでおさんぽ」



南丹市立園部小学校 1年
笹岡那月葉さん



—まいにちがたからもの賞—

👑 産経新聞社賞

「家族全員集合!!」



京丹後市立いさなご小学校 6年
中西 慶一朗さん

👑 毎日新聞社賞

「たのしい! ウォータースライダー」



木津川市立州見台小学校 2年
大西 紘生さん

👑 KBS 京都賞

「かぞくでたこやきパーティー」



精華町立精北小学校 2年
橋本 莉子さん

👑 NHK 京都放送局賞

「かき氷おいしかったなあ」



亀岡市立蒔田野小学校 2年
辻本 蓮さん



—優秀賞—

👑 優秀賞

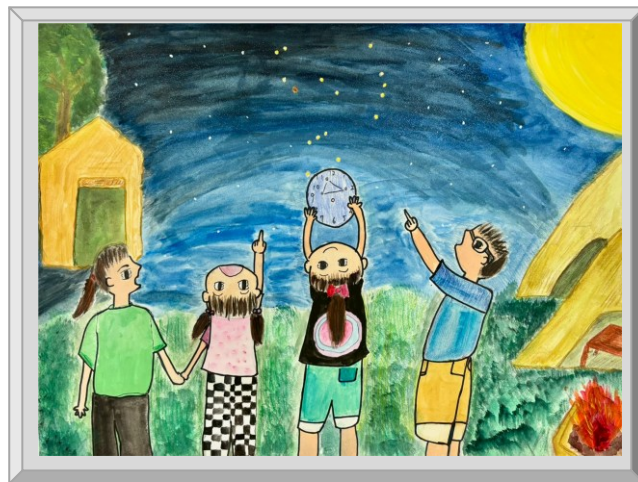
「たのしいごはんのじかん」



京都市立太秦小学校 1年
市川 凜さん

👑 優秀賞

「夜空の下の家族の時間」



京都市立花園小学校 5年
河邊 純羽さん

👑 優秀賞

「みんなでカレーを食べているところ」



精華町立精北小学校 1年
三浦 祐衣さん

👑 優秀賞

「家族で走ったびわ湖一周の思い出」



京田辺市立田辺小学校 6年
渡邊 水翔さん



—優秀賞—

👑 優秀賞

「みんなでたべるとおいしいな」



精華町立精華台小学校 2年
田中晴稀さん

👑 優秀賞

「しかがくれた夏のえがお」



精華町立精華台小学校 2年
羽島礼扇奈さん

👑 優秀賞

「明るいかぞく」



綾部市立物部小学校 3年
瀧谷依里奈さん

👑 優秀賞

「かぞく」



相楽東部広域連合立和東小学校 1年
西井琳都さん



令和7年度「家族ふれあい大賞」第29回「家庭の日絵画展」

講 評

「家族ふれあい大賞」の審査を今年からさせていただきました。様々な学年にわたる子ども達の作品には、個々の世界観と家族の多様な姿が垣間見えて大変面白く見させていただきました。又、審査会における先生方との対話でも表現の多様性を確認できる楽しい時間でした。

本年は絵画が548作品、写真が66作品、総数614作品の応募がありました。応募してくださった子ども達、ご家族の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、審査は本当に選ぶのに苦労しました。どの作品もそれぞれの大事な家族の時間を感じるし、なんとかその時の記憶を留めようと、一生懸命書き込んだり、色を選んだり、構図を考えたりした痕跡が見受けられ、優劣で選び難いものでした。その中でも家族のイベントとしての特別感が高く、瞬間の捉え方がユニークで、絵画では子どもならではの目線で観察し、丁寧に書き込んだり、逆に大胆にデフォルメしたりしたものを選びさせていただきました。写真ではシチュエーションがユニークで、家族間の関係が豊かに現れ、色彩が豊かなものを選びました。

近年は、家族の姿は本当に多様になりつつあります。様々な家族の構成があり、家族の概念の拡大も進んでいます。この公募にもそのような多様性が現れる作品の応募も増えてくるのではと楽しみにしています。笑顔で人々が暮らしを共にして、様々な困難も一緒に乗り越えていけるエネルギーを持っている姿が見えるということは非常に大切なことだと思っています。

絵を描くこと、写真を撮ることは、それぞれ、自分達の生活と関係を一度客観的に捉え直し、人生の記憶に落とし込み、家族の価値を再確認する行為でもあります。にこやかな場面の記憶や人の笑い顔は、そのことを見直すだけで新たな幸せを噛み締めることができます。しかも多くの人々にもその幸せ感が伝わるのです。これからも、絵や写真をきっかけとして、今一度家族について考える機会にさせていただけたらと願っています。

令和8年2月

京都市立芸術大学長 アーティスト
小山田 徹

第四十七回『少年の主張京都府大会』概要

1 趣 旨

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められている。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切である。

少年の主張京都府大会は、子どもたちにとって、これらの契機となることを願って実施した。

2 主 催

(公社) 京都府青少年育成協会・京都府PTA協議会・
京都市PTA連絡協議会・(独) 国立青少年教育振興機構

3 後 援

京都府・京都府教育委員会・京都市・京都市教育委員会・京都府市町村教育委員会連合会・京都府公立中学校長会・京都府私立中学高等学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞社京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞社京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都(順不同)

4 作文の内容

- (1) 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- (2) 家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど。
- (3) テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動や大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

5 応募対象

京都府内の中学校及び特別支援学校中等部に在籍している生徒。
国籍は問わないが、日本語で発表できることが必要。
なお、作品は一人一作品で未発表、自作のものに限る。

6 経 過

(1) 作文募集

令和七年四月下旬、募集要項及びポスター等を府内各市町村・市町村教育委員会、各中学校、青少年団体、関係機関等へ配布して募集

(2) 募集締切

令和七年七月二十五日(金) 応募総数 四三〇九編(三十四校)

(3) 応募作文の審査

第一次審査委員会を令和七年八月八日(金)、第二次審査委員会を八月二十六日(火)開催、入選十五編及び佳作四〇編を選定

(4) 「少年の主張京都府大会」

令和七年九月十三日(土)、京都市国際交流会館 イベントホールにおいて、本大会を開催十五名の入選者が主張を発表。審査の結果、京都府知事賞・京都府教育委員会教育長賞・京都府青少年育成協会会長賞・京都市教育長賞・京都府市町村教育委員会連合会会長賞・京都府公立中学校長会会長賞・京都府PTA協議会会長賞・京都市PTA連絡協議会会長賞・京都新聞賞・KBS京都賞・京都府青少年育成協会会長奨励賞の各賞を決定

〔第一次審査委員〕(五十音順・敬称略)

勝間喜一郎 杉本 勝

〔第二次審査委員〕(五十音順・敬称略)

野村 大輔(委員長)
一色 恭行 上田 静男 菊井雅志

實川 明彦 細井 悠一

〔大会審査委員〕(五十音順・敬称略)

野村 大輔(委員長)
一色 恭行 上田 静男 菊井 雅志 塩見 葉子
實川 明彦 田中 功一 寺内 繭 細井 悠一

(5) 「少年の主張」全国大会への推薦

京都府知事賞を受賞された亀岡市立育親学園九年秦小羽音さんを全国大会候補者として推薦したところ、近畿・中部ブロック代表として、全国大会で主張を発表し、国立青少年教育振興機構奨励賞を受賞された。

(6) その他

① 「少年の主張京都府大会」の様様をネット配信しています。

*当協会ホームページからアクセスできます。



② 「少年の主張京都府大会」DVDを作成し、府内の中学校等に配布しました。

第47回「少年の主張京都府大会」

■入賞者・佳作者一覧■



司会/西 千尋
ガールスカウト京都府連盟
京都市立桃陵中学校 2年



司会/若城博愛士
日本ボーイスカウト京都連盟
同志社中学校 2年

入賞者

賞	テーマ	氏名	学校・学年
京都府知事賞	自分らしく生きる	秦 小羽音	亀岡市立育親学園 9年
京都府青少年育成協会会長賞	かわいそうなんかじゃない	アブドゥル・フセイン・アリーナ	相楽東部広域連立笠置中学校 2年
京都府教育委員会教育長賞	夢と生きる	渡部 凜乃	木津川市立木津第二中学校 3年
京都市教育長賞	内部疾患とヘルプマーク	平野 紗奈	京都市立加茂川中学校 3年
京都府市町村教育委員会連合会会長賞	「思いやり」がつくる「いい人」	出口 杏	亀岡市立東輝中学校 2年
京都府公立中学校長会会長賞	僕の「死生観」	西條 遥葵	亀岡市立亀岡中学校 2年
京都府PTA協議会会長賞	何も変わらない	山本 凜咲	亀岡市立亀岡中学校 2年
京都市PTA連絡協議会会長賞	思いやりの言葉	仲野 凜香	京都光華中学校 3年
京都新聞賞	言葉を紡いだ先に見えるもの	杉 いおり	京都市立加茂川中学校 3年
KB S京都賞	ジェンダーの壁を越えて	鎗野 聡史	向日市立西ノ岡中学校 3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	小さな気づきを行動へ	稲岡 凜	京都府立洛北高等学校附属中学校 1年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	「やばい」は便利?	松本 優衣	京都府立福知山高等学校附属中学校 2年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	「セミと僕」	山本 翔	亀岡市立東輝中学校 3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	商店街の未来を考える	畠中陽世璃	京都府立福知山高等学校附属中学校 3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	全ての人が幸せに暮らすために	亀井志衣菜	舞鶴市立城北中学校 3年

佳作者 (順不同)

氏名	学校・学年	氏名	学校・学年
木下 文	京都府立洛北高等学校附属中学校 1年	橋本 紗那	亀岡市立亀岡中学校 2年
杉本 香帆	京都府立南陽高等学校附属中学校 3年	酒井あずさ	亀岡市立亀岡中学校 2年
松井 蓉実	京都府立南陽高等学校附属中学校 3年	近藤 望愛	亀岡市立亀岡中学校 2年
野口 蒼太	京都府立南陽高等学校附属中学校 3年	松山陽菜乃	亀岡市立亀岡中学校 2年
山崎明日香	京都府立南陽高等学校附属中学校 3年	阪野 莉麻	亀岡市立亀岡中学校 2年
寺尾あおい	京都府立園部高等学校附属中学校 1年	中澤帆乃香	亀岡市立亀岡中学校 2年
片岡 愛	京都府立園部高等学校附属中学校 1年	近藤 杏菜	亀岡市立東輝中学校 3年
福山 碧唯	京都府立福知山高等学校附属中学校 2年	西川 颯真	亀岡市立東輝中学校 3年
鎗水 美帆	京都府立福知山高等学校附属中学校 3年	山口 青楊	舞鶴市立青葉中学校 3年
大田 寧々	京都府立福知山高等学校附属中学校 3年	上西 若葉	舞鶴市立白糸中学校 3年
坂田 昊	京都府立福知山高等学校附属中学校 3年	片山 緋壱	舞鶴市立和田中学校 3年
越智咲優美	向日市立寺戸中学校 3年	森 優亜	舞鶴市立城南中学校 3年
宮部 拓大	長岡京市立長岡第四中学校 3年	宵田 紗良	舞鶴市立若浦中学校 3年
前西 香那	長岡京市立長岡第四中学校 3年	佐藤 翠南	舞鶴市立加佐中学校 3年
梶原 稜弥	長岡京市立長岡第四中学校 3年	長澤 一花	宮津市立宮津中学校 3年
須崎 愛未	長岡京市立長岡第四中学校 3年	石田りりあ	宮津市立栗田中学校 3年
西川 士紋	京田辺市立大住中学校 3年	桑形 瑛太	与謝野町立加悦中学校 3年
森 彩葉	京田辺市立培良中学校 2年	若月 颯太	与謝野町立江陽中学校 3年
吉川 萌菜	井手町立泉ヶ丘中学校 3年	松本 樹音	与謝野町立宮津市中学校組合立橋立中学校 3年
勝谷 菜	宇治田原町立維孝館中学校 3年	廣野 創祐	与謝野町立宮津市中学校組合立橋立中学校 3年

京都府知事賞

「自分らしく生きる」

亀岡市立育親学園 9年

秦 小羽音



「自分っていったい何者？」
こんな自問自答を繰り返す苦しい時期があった。「性別」という枠組みに囚われることが苦しくて仕方がなかったのだ。現在は「トランスジェンダー」や「LGBTQ」という言葉が世の中に浸透して、例えば一般的なアンケート用紙などによくあった「性別」を問う文言がなくなったり、どちらかを選択しなくてもよいというふうにかなり理解が広がっているように感じる。しかし、今でも時折「自分は何者？」という問いが顔を出し、苦しくなったり、無気力になってしまふ瞬間がある。

小学生の頃はずっと一人称は自分の名前だった。「小羽音はくと思う」・「それは小羽音ではない」といった感じで。しかし学年が上がるごとに周りの友達の間一人称が「僕」や「私」

に変わっていき、自分も「私」を使い出すようになった。その頃の自分は「私」という一人称を使う時に感じる違和感を、慣れていないだけだと誤魔化していたのだと思う。

ある時、アニメかユーチューブだったと思うが、「僕」という一人称を使う女性を目にした。その映像が頭から離れず、今にして思えばこの時が性自認に対する違和感を明確に意識した時だったかもしれない。「私」よりも「僕」を使う方が自然に感じたのだ。それ以来「僕」という一人称を使い始めたわけだが、中学一年生の中頃までは制服のスカートを履き、髪も特別短いわけでもなかった。

自分にとって大きな変化が出始めたのは、八年生の家庭科の授業で浴衣を着た時だった。男子と女子に分かれて浴衣を着たのだが、自分は男子用の浴衣を着たくて、女子用の浴衣を着ることにものすごい抵抗感を抱いたのだ。結局女子用の浴衣を着たのだが、「女子用の浴衣を着ている自分」と「女子の枠組みに入っている自分」に何とも言えない嫌悪感を持ち、先生が写真を撮ってくれたのだが、カメラに向かって笑顔を見せることができず、気まずい空気を作ってしまった。この出来事が引き金となり、自分のことが嫌いになって、学校に行きたくないと思うことが増えた。学校に行くと、性別を意識することが増えるからだ。例えば、保健体育の授業。更衣室での着替えだったり、別々に受ける授業に異様に反応してしまう自分がいた。十五年生きてきた中で髪を一番短くしたのも、ズボンしか履かなくなっただけのもこの頃だ。

そんな自分の変化に気づいてくれたのが、母であり、先生だった。自分がノートに走り書きした文章に込められたSOSに気づいてくれ、苦しい胸の内を初めて打ち明けることができ「自分はいったい何者なのか」―自分自身

うまく表現できない感情を、話をじっくり聴いて客観的な視点で整理・言語化してくださった。この時、「理解してもらえたこと」という安心感を持ってたことで、日常が断然過ごしやすくなり、人に話すこと・聴いてもらうことの重要性を知った。

最近、「カミングアウト」についてよく考える。自分は、あの時悩みを打ち明けて良かったと思っている。しかし、生まれた時の性別に違和感を持っているからといって、わざわざ「カミングアウト」なんて重々しいことなどしなくいい社会であってほしいとも思う。以前「普通」という言葉を使う事に対して異議を唱えたことがある。「普通はく」という表現の中に、「普通」ではないものに対する差別的な意味を感じてしまったからだ。「多様性」という言葉が社会に浸透して久しい。あらゆる人々の存在や文化を認め合おうということだ。それなのに「普通」という言葉に私たちは囚われ過ぎていくと思う。世の中の価値を決める物差しはたくさん存在し、「普通」という物差しの中に縛られなければならない理由はない。好きなものや得意なもの、顔や身長がみんな違うのと同じように性別だってみんな違う。固定概念に囚われず、一つの個性としてみてみることで新たな発見もあるのではないだろうか。「こうあるべきだ」に囚われない社会こそ、本当の意味での「多様性」のある社会だと思う。母や先生の「女性とか男性とか、そんなことにこだわっているのはあなただけで、周りは意外と気にしていないよ。」という言葉が今の自分の心の支えになっている。現在受験生の自分は、進路を決める大切な時間を過ごしている。これから先、「秦 小羽音」という一人の人間としてどれだけ成長できるか。目指す進路に向けて頑張る自分を好きになりつつある。

京都府青少年育成協会会長賞

「かわいそうなんかじゃない」

相楽東部広域連合立

笠置中学校 2年

アヴドウル・フセイン

・アリーナ



「かわいそう」それって慰めの言葉なのかな。それは、私が常々感じていることです。小学六年生のある日のこと、その日は道徳の授業があり、障がい者に関する話でした。授業をしてくれた当時の担任の先生は、黒板に「障害者」の「害」を漢字で書かず、ひらがなで書いたのです。私は今までずっと「障害者」を漢字で書いていたので、なぜ、ひらがなで書くのか疑問に思い、「なんで障がい者の害を漢字で書かないのですか。」と質問してみました。すると、先生は「害という漢字は、人間に害が及ぶと言う意味だから、べつに障がいがある人がいても迷惑にならないし、害も及ばないやろ？」

と優しく答えてくれました。その時、私はその先生の考えが素敵だなと思いました。

私には、発達障がいのある小学二年生の弟がいます。小学二年生になった今でも、まだ自分の気持ちを言葉で伝えることは難しい状態です。そんな弟のことを誰かに話すと、

「え、かわいそう。」

「早くしゃべってくれたらいいのにね。」

「辛いやろ？」

と言われることが多いのですが、私はべつにかわいそうとも、早くしゃべってほしいとも思っていないません。それは、そのこと自体が弟の個性であり、弟が一人の人間として、私の弟として、みんなと同じ小学二年生として、楽しく、明るく生きてくれたら、私はそれが一番嬉しいからです。

「障がい者ってかわいそう。」

という言葉や、

「体に障がいがあるってかわいそうだね。」

という言葉を聞くと、とても悲しくなります。

その「かわいそう」という言葉は、言っている側は慰めの言葉のつもりで言っているのかもしれない。しかし、そんな言葉をかけられた当事者やその家族は、ありがたいとは思わないのではないのでしょうか。私もその一人です。当事者の家族として思うことは、もっと弟のことや、接する私たち家族について、興味を持ってほしいということ。例えば、

「もっと教えて。」

「もっと知りたい。」

「力になれることはない？」

というような言葉です。

実際にある友達に弟の話をしてきた相手とは違うリアクションをしてくれた子がいました。その子は、もっと弟のことを知りたいと根掘り葉掘り弟のことや、弟との生活について聞いてくれました。私はその時、今までその話を

して感じるが多かった

「そういうことじゃないんだけどな。」

という気持ちにならずに、むしろスッキリしたことを覚えています。

確かに、弟と過ごす中で、一筋縄ではいかないこともあります。普通よりも時間がかかることもあります。けれども、それも含めて弟であって、それが大変ということではないです。

しかし、世間の「障がい者」に対する認識や捉え方が、自分たちの思いとは違うことが多く、そのギャップに悩んだり、苦しめられたりすることはあります。

私は「障がい」というものをネガティブに捉えるのではなく、ただ一つの個性として認めてほしいのです。そして、私たち当事者は、「かわいそう」という慰めの言葉よりも、理解と協力を必要としています。

今は、先に話した先生だけではなく「障がい者」というときは「害」という字を使わないことが増えてきています。また、「障がい者」に対する理解や認識も多様化し、以前に比べて当事者や当事者家族も生きやすい時代になってきているのも事実です。しかし、今でも偏見が完璧になくなったわけではないし、口で何かを言っている、行動にまで移せない人も多いのではないのでしょうか。

もっと「障がい」というものに興味を持ってください。

私の弟も、弟を支える私たちも、どんな人でも生きやすい、そんな社会になることを願っています。これは、私たちだけでなく、世の中の障がいがある人やその家族が願っていることだと私は思います。

もう一度、どんな人でも生きやすく、尊重される社会の在り方というものを考えてみませんか。

京都府教育委員会教育長賞

「夢と生きる」

木津川市立木津第二中学校 3年

渡部 凜乃



「将来の夢は何ですか。」
幼い頃から、言葉を変えて大人たちから何度も繰り返されるこの問いかけ。今まで私も、さまざまな答えを返してきたように思う。覚えてる限りで一番最初の答えは「プリキキュアになること」だった。幼い私は、ただプリキキュアが好きだったのだろう。そして、いつか自分もかわいくてキラキラしたプリキキュアになれると信じていた。でも、いつしかその夢は私の中から姿を消した。

夢は変化していくものだ。まるで関係のなさそうな夢達も、きつとその人の中で小さなかけらとなって次の夢へと想いを紡いでいる。私の場合、幼い頃にキラキラ輝くプリキキュアに憧れ

た気持ちには、今、歌ったり踊ったりする舞台芸術に憧れる私の夢へと引き継がれている。夢は形を変える。ずっと一途に想い続けられるものはとても少ない。中にはずっと一つの夢を見続けて、信じて努力し、その夢を叶える人もいる。それは確かに素晴らしいことだ。でも、おそらくほとんどの人は途中で自分に問いかけ始める。自分が本当に好きなこと、やりたいことは何なのか、と。そこで進む道を引き返したり、目標地点を変えることは決して悪いことではないし、それまでその夢に費やしてきた時間も、決して無駄ではないはずだ。

夢が変わるということに対して、諦めるとか投げ出すというようなネガティブなイメージを持つ必要はない。今まで応援してくれた人達に対して申し訳なく思うこともない。人は変化していくのだ。それは成長とも呼べるだろう。私たちは迷ったり立ち止まったり、ときには引き返したりしながら、それでも勇気を出して新しい一歩を踏み出していく。見守ってくれる周囲の温かい存在に感謝しながらも、次の一歩は自分で歩むしかないのだ。

そして、夢にはいろいろな形がある。同じ夢を抱いているように見えても、目指す地点も、人生におけるその夢の存在の大きさもそれぞれ違う。でも、私はそれによって夢の価値が変わるとは思わない。大きな夢も小さな夢も、成功してもしなくても、その夢を持って追いかけた時間はどれも素晴らしく、かけがえのないものだろう。頑張ってきたことが結果として表れることもあれば、何も形をなさないこともあ

る。しかし、夢が与えてくれたその道のりや時間、自分自身の心の成長には、必ず意味があるのだと私は信じている。

夢について考えるとき、ふいに思い出すことがある。幼稚園の頃に開いた子ども科学図鑑で、雲のしくみを知った。いつか雲に乗って遊べることを想像していた私にとって雲に乗れないと知ったことは少しの痛みを伴った。これは私が成長する中で何度か繰り返された痛みだ。雲の上の遊び場やクリスマスプレゼントの贈り主、魔法の使える世界など、何かを知るたびに私の中から去っていく世界があった。どの場面でも、当時の私は真実に薄々気づいてきていた。でも、それを口にしてしまったら、私の中の何か大切な世界が失われてしまう気がして、知らないふりをしていた。将来のことを少しずつ現実的に考えなければいけなくなってきた今、何だかあの時の感覚を思い出す。急に現実を突き付けられたような感覚。ただ自由にあれこれと夢を膨らませた自分は今もういなくなったのかと、不安や寂しさを感じる。しかし、皆平等に時は流れ、私たちは成長していく。ずっと同じではいられない。結局、私の手からプリキキュアの必殺技のハッピーシャワーは出なかったし、今は成長して形を変えた夢と共に十五歳の私を生きている。そしてこれからも、私自身も、私の夢もどんどん変化していくだろう。それでも、どんなときも変化を恐れず、自分自身を肯定しながら、夢を持って歩める自分を愛おしく思える私でありたい。

夢と共に生きる人生は、きつと幸せだ。

京都市教育長賞

「内部疾患とヘルプマーク」

京都市立加茂川中学校 3年

平野 紗奈



みなさんは障害者と聞いてどんな人か、浮かべますか？車いすに乗っている人？補聴器を付けている人？それとも白杖を使用している人でしょうか？

障害の種類は主に三つに分けられます。一つ目は「身体障害」。これは日本人の中で最も人数が多く、約四百万人もいるといわれています。二つ目は、「知的障害」。そして三つ目は「精神障害」です。今回は一つ目の「身体障害」の中でも一番割合が多い「内部疾患」について話したいと思います。

まず、身体障害者の約八十%の人は内部疾患だといわれています。そして内部疾患は「心臓機能障害」、「腎臓機能障害」、「呼吸器機能

障害」など全七種類の障害があります。

私は、生まれつき、心臓機能障害をわずらわしている、その後も感染症により右肺の機能が失われたことで今は呼吸器機能障害も持っています。ただ、同じ障害名でも生まれてから成長する中で急に発症する人や、年をとってから発症する人もいるため、症状は人それぞれと言えます。しかし、内部疾患を持つている人のほとんどに共通するのが、他の障害と違い、外見からは障害があることが分かりにくく、周りの人に理解してもらいにくいという点です。例えば私の場合は、長い距離を歩いたり走ったりすることができないため、移動の場合はよく車いすに乗ります。その際にクラスメートから「教室ではいつも歩いているのになんで車いすに乗っているの？」と聞かれたことがあります。また、車いすから降りて歩くと周りの人にびっくりされたこともあります。

車いすの利用はバリアフリーの建造物が増えたことよってとても便利になってきたと言えます。しかし、私は周りの人に批判的に見られているのではないかとという居心地の悪さを感じたり、周りの人に上手く言葉で説明できないもどかしさに嫌だなど思うことがあります。そのことを母が同じ病児を持つ母親に相談した時、『ヘルプマーク、付けてないの？』と言われて私と母は初めて「ヘルプマーク」の存在を知りました。

みなさんは「ヘルプマーク」を知っていますか？ヘルプマークとは、赤い背景に白い十字と

ハートマークが描かれているゴム製のストラップのことです。主にキールホルダーのようにバックなどに取り付けて使用します。裏面には支援してほしい内容や連絡先、自分の症状などを記入したシールを貼れるようになっていきます。対象者は内部疾患や難病の人など、援助や配慮を必要としている人です。見えないところに障害を抱えていて周りの人に助けてもらいたいことがある人からすれば、とても便利なマークです。

ところが、全国共通のマークになってからまだ八年しかたっていないこともあり、未だに知らない人も多いと感じています。人によっては妊婦さんがつける「マタニティマーク」と間違われることもあったそうです。ただ、逆に言うと、これからヘルプマークがマタニティマークのようにどんどん広まれば、気軽に助けられる人も増えるということだと思います。だから、これを機会に、もつとヘルプマークのことを調べて周りのヘルプマークを知らない人に教えていたできたいと思います。そしてヘルプマークを付けている人を見かけたら席をゆずったり、困っておられたら気軽に声をかけたりしてあげてほしいです。

みなさん、「ヘルプマーク」に興味を持っていただけましたか？少しでも身体障害についてもお話したように、あなたの身近にも見た目だけでは分からない障害を持つている人がいるかもしれません。そのことを念頭に置いていただき、少しでも理解してもらえたらうれしいです。

京都市市町村教育委員会連合会会長賞

「思いやり」がつくる

「いい人」

亀岡市立東輝中学校 2年

出口 杏



「いい人」とはどんな人だろう？私は普段の生活の中で「あの人はいいい人だ」「いい人になりたい」といった言葉を何気なく使っているが、そんなに深く考えたことはなかった。そこで私は「思いやり」がある人が「いい人」だと考えた。なぜなら「いい人」であることと「思いやり」を持つことは切っても切り離せないものだと思うからだ。

では、「思いやり」とはなんだろう。そのことについて深く感心したのが、道德の授業での話だった。その話とは、中学生がおじいさんに席を譲ったが、おじいさんに反発的な態度を取られ、「人は難しい」と感じたというものだった。その中学生の思う「思いやり」は、おじいさんにと

って必要のないもので、思いがすれ違ってしまったのだ。この話から「思いやり」には人それぞれの感じ方があり、その経験をした人が本物の「思いやり」の行動をとることができるとわかった。「思いやり」とは、単に人に優しくすることだけではない。相手の立場に立って考えること、相手の感情に寄り添うこと、そして自分の都合よりも他人の気持ちを優先できる心のゆとりを持つことだと考えた。それを行動に移し続けていけることが真の「思いやり」なのだとは深く感じるようになった。

その授業の後、私は友人と遊びに出かけた。そこにはフードコートがあって、人が多くて何回か見渡してようやく座れるぐらゐの状況だった。ゆっくりしている隣で小さい子供を連れた家族が小さな机に座っていた。そこで友人が、机の半分をその家族のところに分けようと言った。そして、早く食べて席をあげようと言ってきた。正直ゆっくりしたい気持ちがあったが、そんな友人に感動して、私はすぐに賛同した。私は、この時に友人のこゝろを心の底から「いい人だな」と思った。相手の心を察し、自然に行動ができる人を初めて間近でみて、この友人に心から尊敬の念が湧いた。そんな姿を見せてくれた友人を私は心から信頼する。そして、私も友人のように温かな心を分け与えていけるような人になりたいと思った。温かな心は、努力によって自分で身につけることができる。「いい人」であろうと努力できること自体が、すでに「思いやり」の一步を踏み出していると思うからだ。努力は積み重ねで実るもの。その努力を

続けることができたなら、今の自分が理想の自分に近づいていく。

そんな実体験の中で、それぞれの「思いやり」が輝いて「いい人」になっていくのだとわかった。もちろん、すべての人に常に「思いやり」をもって接することは容易ではない。人の心である以上、ときには自分の気持ちに余裕がなかったり、相手に対してネガティブな感情になったりすることもあゝる。そんなときにはメリハリをつけ、まず自分の心を大切にしてあげることが重要だ。

「思いやり」を持った人々が増えれば、社会はもつと優しく、居心地の良い場所になると思う。もし、私たち一人一人が「思いやり」を大切にして行動することができたのなら、困っている人にすぐ手を差し伸べ気持ち理解し合い、助け合うことができる社会が実現するだろう。私も、これからの生活の中で「思いやり」をもつと大切にしていきたいと思う。

それはAIやインターネットによって、誰でも見えないところまで気軽につながることができるようになるから、必要な視点ではなないだろうか。そのような社会の変化によって決して失われてはいけないものであるはずだ。しかし、我々は残念ながらその心が失われつつあるように感じる。「自分さえ良ければ良い」というような寂しい社会にしてはいけない。その第一歩が「思いやり」なのだ。

みなさん、今一度、自分の心と向き合ってみてほしい。利己的な考えだけで、行動をせず、温かで居心地の良い社会と未来のために「もう一度」お互いに「思い合っ

京都府公立中学校校長会会長賞

「僕の「死生観」」

亀岡市立亀岡中学校 2年

西 條 遥 葵



皆さんは、「死生観」という言葉について考えたことがあるだろうか。死生観とは、生きることや死ぬことに対しての価値観のことを指す。「死生観」について考えるようになったきっかけは、祖父の存在があったからだ。

僕は、おじいちゃんのことを大好きだ。おじいちゃんは中学校を卒業後、高校へ進学せず左官業を始めた。そしてその仕事を五十年以上続けていた。プロなのだ。僕はそのプロから、左官のやり方をよく教えてもらっていた。小・中どちらの学校の入学式にも来てもらった。いつも僕のことを気にかけてくれる、そんなおじいちゃんのことだが、本当に大好きなのだ。

今から一年前のある日、母が絶望的な声で、

僕と父に言った。「おじいちゃんが、がんを発症した。」あれほど大きな衝撃を受けた父の表情を見たのは初めてだった。ただ、当時の僕は、がんがどのような病気なのかを全く理解しておらず、考えたこともなかった。両親の反応からただ事ではないということだけは、僕にも理解することができた。

その日を境に、生活は一変した。おじいちゃんも、僕たちも。

おじいちゃんは入院した。僕もお見舞いに行つたが、母は一週間に四・五回おじいちゃんの元へ行くようになった。大好きな祖父を心配する気持ちと、母が常に祖父のことばかり考えていることに、僕の心はざわざわした。そんな生活が続いたある日、いつも通り病院へ行つた母からさらに衝撃的な言葉を聞いた。帰宅した母に僕が「おかえり」と言うと、母は硬い表情をして、絞り出すような声で言った。「じいじが余命宣告された。」と。僕は固まったまま、しばらく動くことができなかつた。母のショックや絶望は想像を絶するものだったはずだ。それでも、僕に一生懸命向き合つて伝えてくれた。僕は正直、人がいつ死ぬかなんて神様でもないのにわかるわけがないと思つていた。しかし、今の医療技術はすごかつた。その後すぐに祖父の体調が急変した。僕は母と共に急いで病院へと向かつた。

緊急性が高い患者さんに対応する部屋に寝かされた祖父。緊迫した空気の中で母が病院の先生と話す姿。そして、決して祖父の前では不安そうな顔を見せまいと思ひ、笑顔で振る舞う

母。母は、この時間を永遠のように感じただろうというところは容易に想像できる。

容態の落ち着いた祖父を残し、帰宅するとき、母はお医者さんから「家から何分で来れますか。いつでも電話に出られるようにしておいてください。」と伝えられたことを話してくれた。その言葉の意味を理解した僕は、目の前が真っ白になつた。今でも祖父は、家で必死にがんばると闘い、元気に過ごしている。しかし、この日感じた恐怖心や、周りに心配をかけまいと必死で振る舞つたときの気持ちを、僕は一生忘れない。

この祖父の一連の出来事を通して、僕は生と死を身近なものに感じた。「生きる」という幸せは、いつまでも続かない。そして最期の時はいつきてもおかしくない。だからこそ、「毎日生きている」というどんなことにも勝る幸せを、日々噛み締めなければならぬと、心の底から思つた。「人は失つて初めて本当に大切なものに気づく」と言われている。しかし、そんな気づき方は絶対に良くないしあつてはならないと強く思つた。何気ない日々は退屈で、楽しくないと思うこともよくある。人を心の底から恨み、嫌いになることもある。しかし、それで終わってしまうてはいけない。なぜなら、生きていくということ以上に幸せなことではないからだ。

これから僕は、人の「命」の大切さや尊さ、幸せについて考えながら、これからの人生を歩んでいく。

京都府PTA協議会会長賞

「何も変わらない」

亀岡市立亀岡中学校 2年

山本 凜 咲



皆さんは障がいという言葉だけで相手を決めつけたことはありませんか。私には、今まで普通に接していたつもりが相手を特別扱いしていた、という経験があります。

私には三つ下の弟がいます。恐竜と歌うことが好きな元気な男の子です。そんな私の弟には、生まれつきダウン症という障がいがあります。私は幼い頃、弟に対して「不自由な生活を強いられてかわいそうだな」と思っていました。酸素をつけていたので行動制限があったこと、伝えたいことが上手く伝わらないこと。弟の様子を見て、もどかしい気持ちになったことが何度もありました。弟が成長し、小学校に入

学する頃には、地域の小学校と支援学校、どちらに通うかの選択を、両親と弟は迫られていたのです。母は毎日のように学校の先生と話し合い、「弟を地域の学校に行かせたい」という思いを固めたそうです。それは、決して簡単な選択ではなかったのだと思います。

今弟は、地域の小学校で周りの子と一緒に仲良く遊んでいます。しかし、家ではわがままな一面のある弟は、よく私に物を取りに行かせます。「弟と私は違う。弟は大変なんだから助けてあげなければ。」と考えていた私は、弟の言うことを積極的に聞いてやり、物を取りに行ったり、危ないことがあるとすぐに弟と代わってあげたりしていました。

ある日突然、母は私に言いました。「案外凜咲も、弟を障がいがあるからと特別扱いしているね。」と。初めは意味がわかりませんでした。「私は普通に接しているつもりだったのに、何がいけないの。」と感じました。もともとしながらも、ふと姉と母の接し方を見てみると、二人は私と違い、自分で行動させることを大切にしていくことに気がつきました。「全て助けたら弟の成長のためにならない。」と。私ならすぐに手を貸していた場面でも、二人は弟の行動をじっと待ってあげているように見えませんでした。そんな二人を見て、自分が無意識に弟を特別扱いしていたことがわかったのです。

このように、私は無意識に障がいがある弟への接し方を勝手に決めつけ、行動してしまっていました。だからこそ皆さんに伝えたい。皆さ

んは障がいを持っていてから生活が大変である、全てを助ける必要がある、と決めつけていませんか。必要なのは相手のことを知り、一緒にこれからのことを考えることです。

私には弟以外のダウン症の子とも達と接する機会があります。笑顔が素敵な子、足が速い子、美味しそうに食べる子、字が綺麗な子、お世話が上手な子、人一倍優しい子。みんな一人個性があり、それを恥ずかしがらずに周りに表現することができるのです。安心できる場があれば、たくさん自分を自分ですることが出来る。そして、何かが出来たとき、子ども達は本当に嬉しそうに笑っています。こうした、その子をよく見ないと気づくことができない現在の力や成長は、始めからできないと決めつけてしまっていては絶対に気づくことができません。

まだまだ障がいへの偏見があります。偏見だけでなく、私のように「決めつけ」で成長を妨げることもあります。私にとつて大切な弟。相手のことを思っても、判断が難しいなど思うことはたくさんあります。けれど、周りに少しでも理解し、協力できる人がいることで、本当の支援ができると思います。もちろん難しくてもできないことは手助けが必要です。ですが、全てではない。他の人よりも少し手助けが必要なかだけだということを忘れないでいたいです。私はこれから胸に刻みます。みんなが認め合い、助け合える社会に障がいも何も関係ないことを。

京都市PTA連絡協議会会長賞

「思いやりの言葉」

京都光華中学校 3年

仲野 凜香



私は、昔から少し口が悪かったです。いや「少し」なんてかわいいものではなかったかもしれませんが。正直言ってみるとかなりひどいものだったと思います。友達との会話ではすぐに皮肉や愚痴が飛び出し、気に入らないことがあればさらに強い言葉で反論、相手をのしりました。特に負けず嫌いな性格が災いして、議論になると感情的になり、相手を言い負かすためならどんな言葉でも使ってしまった。その頃の私は、言葉はただの便利な道具だと思っていました。だから、言葉の持つ力やそれが他人に与える影響について深く考えることはありませんでした。むしろ強い言葉を使うことで、自分が

相手より優位に立てる、周りから一目置かれると勘違いしていたように思います。しかし、そんな私の周りから、少しずつ人が離れていくことに幼かった私は気づくことができませんでした。

決定的な出来事が起きたのは、中学二年生の時でした。クラスで意見が対立し、私はまたしても感情に任せて友達をひどく罵倒してしまいました。その友達はいつも温厚で、私の言葉にもめったに反論しないタイプでした。しかし、その日ばかりは違い、彼女はわたしの言葉に深く傷つき、それまで見たことのない悲しい顔で私にこう言いました。「あんたのそういうところが一番嫌いやわ。」

その言葉は私の心に強く突き刺さりました。彼女の顔に浮かんだ悲しみとその声にふくまれた絶望。私はその日初めて自分の言葉がどれほど人を傷つけるものなのかを痛感しました。自分の放った言葉が友達との関係を壊してしまいました。「口は災いのもと」とは、このことをいうのだと思知らされました。

この出来事をきっかけに私は真剣に自分の口の悪さと向きあうことを決意しました。感情がこみ上げてきてもすぐに口に出さず、一度頭の中で言葉を選びなおすようにしました。そして、相手の気持ちを想像するように努めました。もし自分が言われたらどう感じるか、相手はどんな気持ちでいるのか等、考えて発言しました。また、私は積極的にいい言葉に触れるよう、小説を読んで語彙力も鍛えました。美しい

言葉、温かい言葉に触れると自然と心が浄化されるような感覚を覚えました。また、日常でも意識して感謝の言葉を多く発するようにしました。すると、不思議と私の心も少しずつ穏やかになっていくことが感じられました。

今学校で起こっている問題の根本は、「言葉遣い」なのではないでしょうか。最初こそ丁寧に言葉を選んで仲良くしていたものの、仲が深まり油断して、つい強い言葉を発してしまう。その一言で相手を傷つけてしまったり、ひどい場合は、いじめに発展する可能性もあると思います。傷つけられたほうは一生涯心癒えない心の傷を負うかもしれません。だから、言葉選びには十分気をつけなければなりません。相手のことを思いやることができたなら、いい人生を歩めるのではないのでしょうか。

今、私は以前のようにひどい言葉は使っていません。もちろん完璧ではないけれど、少なくとも言葉が原因で誰かを深く傷つけるようなことはなくなっただけです。なにによりうれいのは、私自身の心が以前より穏やかになったことです。言葉は凶器になるけれど、同時に心をつなぎ、人を励まし、勇気を与えることもできます。これからは言葉をいい方向に使って周りの人たちを笑顔にできるようにしたいです。もし、過去の私のように言葉で悩んでいる人がいれば、私の経験を伝えたいです。言葉は私たちの未来を紡ぐ大切な糸です。これからもその糸を大切に紡いでいきたいと思っています。

京都新聞賞

「言葉を紡いだ先に見えるもの」

京都市立加茂川中学校 3年

杉 いおり



「私はスマホを持っていません。」といういつもの色々な人にびっくりされる。最初は周りのみんなが持つていることがうらやましく、色々な連絡を取る際にも困るのではないかと感じたが、実際は今の生活の中で不便に感じることはほとんどない。「中学卒業まではスマホを持たずに家族での会話を大切にしよう！」というのが我が家のルールなのだ。このような私の家族は、今時珍しいのかもしれない。しかし、意外とこの生活もよいのではないかと思う。スマホやSNSは確かにとても便利ではあるが、一方で手元に常に持つことによって無意識に触る時間も増える。負のコメントで人を傷つけたり、未成年が犯罪に巻き込まれたりする

ことも多い。その便利さは時に私たちの大切な日常の会話や自ら考える力を奪ってしまうのではないだろうか。

少し前のことになるが、家族で夕食に出かけた際に、ある家族の食事の光景を見て私は驚きを隠せなかった。我が家と同じ楽しい外食のはずなのに、その家族は一切会話がなかったのだ。兄妹二人は延々と無言でスマホを操作している。彼らの両親は注意することもなく黙々と食事をしていた。それを見て「彼らは何故ここに食事をしに来たのだろうか？」と素朴な疑問がわいた。もちろん色々な家族があって、様々な理由もあるのだろうがその光景は私にはとてもさみしいものと思えた。

さて、私の日常を少し紹介したい。「中高生ってむずかしいお年頃よね？」という世間の常識とはまた少々外れているのかもしれないが、私たち姉妹はその日の出来事を何でも話るのがいつもの日課だ。私は学校で楽しいことや辛いこと、どちらも沢山抱えて帰宅する。「誰かに聞いてほしい！」と心が辛くなる時もある。そんな時に頼りになるスーパードーマンが私の母である。自宅のドアを開けた瞬間から、私のマシンガントークを延々と聞いてくれるのだ。時に長くなる私の話を母は必要な所を押さえて受け止め、私が自分の答えを自分の力で引き出せるようにしてくれる。たまにアドバイスをくれるが、簡単に答えは教えてくれない。自分に余裕がなくてイライラすることもあるが、私にとっては一度冷静に立ち止まってどうすべきかを考える時間になる。まれに姉と同じタイミングで話し始め「我こそが先に！」と

戦うこともあるが、母は笑って「私は聖徳太子か！」と言うので、そこで顔を見合わせて思わず笑ってしまい試合終了。そのまま二人で歌を歌いながら「今日もすつきり！」となるパターン。父とはボードゲームをすることが多いが、誰よりも大きな声で笑う父が少し面白い。

もう一つ紹介したい我が家の面白い特徴がプレゼンテーションだ。旅行の行き先の候補を挙げ、意見が分かれたらそれぞれが行きたい場所を調べて各自がプレゼンをする。最終的に一位になった人の意見がその年の行き先となる。お互いに「調べ方が甘い。」と指摘したり、「ここはいいね！」とほめたりして自然と会話が弾み、価値観の違いや言葉の定義の違いを理解することで、自分以外の意見を受け入れてそこから学ぶことも多い。私にとっての家族との時間は、「コミュニケーション力アップの実践講座」なのである。

私はこれからの未来、人が自分の心の内を言葉で語るの、今より難しくなっていくのではないかと不安だ。だからこそ毎日の生活の中で言葉の温かさや美しさ、思いを伝えることの大切さや難しさに気づくことはとても重要であると思う。そして自分の言葉を丁寧に紡いでいくことが、相手を理解し、自分を理解してもらうための「最強ツール」であり、よりよい人間関係を築くための一歩なることは間違いないだろう。目の前の誰かとの時間を大切にしながら、私はこれからも自分の思いを変わず言葉にしていく。

KBS京都賞

「ジェンダーの壁を越えて」

向日市立西ノ岡中学校 3年

鎗野 聡 史



美しいフォルム、轟々と音を立てている機械音。私は、飛行機が大好きです。特に、離陸の時は、まるでアトラクションに乗っているようでとても興奮します。飛行機といえば、他の乗り物よりも速く遠くの国まで飛べる所が最大の魅力だと考えます。

「キャビンアテンダント(CA)になりたい」と思ったのは、小学校三年の時のこと、機体が大きく揺れ動いても、何事もなかったかのように、格好良く振る舞い、赤ちゃんや小さい子供に、あたたかく接する。そんな職業に、私は初めて憧れを持ちました。

私にとってショックな事実を知ったのは、CAを志してから約二年後の小学校五年生の時でした。自分のなりたい職業を調べる、職業調べをしていた時のことです。グループワークだったので

仲が良い友達と取り組んでいました。すると友達に「そうし、CAになりたいん。それって女の人がやるやつじゃないの。」と言われました。

それだけだったら良かったのですが、たちまち私の夢はうわさとして広まり、しまいには、みんなに嘲笑われ、私の心には、ぼっかりと黒い穴が空いてしまいました。

その時の私は、「いやいや冗談やん。」「そんな女子みたいなことそうしがするわけがないやん。」などと、気づけば思ってもいないようなことが口からどんどんと、流れていきました。

本当は、CAになりたかったし、私も、CAに憧れを持つことぐらいたったし、私も、CAにしかし、言うのと嫌われたり、気持ち悪がられたりすると、どうしても言えませんでした。

そんな私の心の中で、うずまく気持ち、私の心を混乱させ、私を、ひどく、ひどく悲しませました。

「やっぱそうしは、みんなとちゃうんかな。」そう思い始めた頃には、もう、心の支えになつてくれていた、幼馴染は引越してしまい、いませんでした。相談できる友達もおらず、心細くこれからどうしたらいいんだらうという不安でいっぱいでした。

ある日、家族でごはんを食べていた時に、ひとりこの問題を抱え込むことに限界が来た私は、家族の前で打ちあけることにしました。

「お父さん、お母さん。そうしは、CAになりたいねん。男子のそうしがやんののは、おかしいかもしれんけど。」私の心臓はどくどくと鳴っていて、顔を上げるのがとても怖かったです。どんな反応をされようと受け入れるつもりでいたのですが、母が私に、

「ええ夢やん。なれるよ、そうしは。それを笑うやつがおんねんやつたら、そんなん鼻で笑い返したれ。」思っていた答えと違うこたえに、一瞬、戸惑いましたが、すぐ背中を押されたような気が

持ちになれました。すると続けて、父が、「男の人がCAやっつっても何も問題もないっちゅーねん。やりたかったら、やったらええし、それを笑うほうがおかしい。お父さんは応援するで。全力で。」その時、自分は間違ってたんや。やっぱ男子がCA目指すのも普通なんや。と思い、心の中でうずまいていた気持ちも、一気に晴れました。

現在、男性CAの割合は、「ANA」の場合だと、七八〇〇人CAがいる中のたった数十人しかおらず、「JAL」も、一九五一年から一九五三年にかけて、採用された人数は十人程度しかいなかったそうです。他国でも同じなのか調べてみると、日本のようなケースのほうが稀で、フランスに至っては、三人に一人が男性だということがわかりました。この現状を受け日本は、男性CAの存在をアピールしたり、採用の数を少しでも増やす取り組みが行われています。

さらに、「電通総研」によると、日本は男女平等意識率は低く、一四六カ国中、一二五位と、世界からみても、日本は、ジェンダーに対する正しい理解を持っている人は数少ないということがわかりました。

私はこれからの社会で、私みたいに、しんどい思いをする人が増えてほしくないと思っています。男女関係なく、自由な職業に就ける明るい社会になってほしいと思います。

これからの私は、お父さんとお母さんが言ってくれたことを信じて、真つすぐに夢に向かって頑張ります。その先に、きっと私のことを受け入れてくれる人がいると信じています。そして、私が男性CAとして活躍することで、ジェンダーにとらわれない社会につながると考えています。

私達は変われると思います。きっと私が望んだ未来は来る。そう私は信じています。そうならば、社会は「ジェンダーの壁を越えたその先の未来」に一歩前進できると考えます。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「小さな気づきを行動へ」

京都府立洛北高等学校

附属中学校 1年

稲岡 凛



六月の、雨の降る朝。今日もバスは通勤、通勤の人々で溢れ、小学生の元気な話し声がこちらから聞こえてきます。ただ、雨の日は気にかかることがあります。毎朝、私の乗る二つ先のバス停で視覚に障害のあるおじいさんが乗ってこられます。その方は雨の日、いつもより混んでいるバスの端で、窮屈そうに身を縮めておられます。私は雨の日、その方が不安そうな顔でずっと立っておられるのが心配で、気がかりなのです。晴れの日は一つや二つくらい席が空いているのですが、今日は一つも空いていません、話に夢中の小学生とスマホをじっと見つめながら優先座席に座っている大人を前に、私は下を向いて立っていることしかできませんでした。そのときです。乗車口の近くの席に座

っていた、若い外国人の方が「よければ、どうぞ」

と、席をおじいさんに譲られたのです。たどたどしい日本語でしたが、その言葉からはぬくもりが感じられました。おじいさんの顔も安心したような笑顔になりました。

ほんの少しの時間で交わされた出来事です。私はとても大切なことを学んだ気がします。それは、行動力。もし、自分があの外国人の方の立場だったら・・・と考えると、幼いときの素直に席を譲っていた自分と、断られたらどうしよう、という気持ちに邪魔をされ、ぼつと席を譲れなくなった今の自分が思いうかびました。私は、気づいたことがあってもすぐに言えなかったり、行動できないことがあり、今の自分を情けなく感じました。言葉も通じることができない、異国の地で、私も同じ行動ができたでしょうか。また、優先座席を譲らなかつた小学生や大人に対する腹立たしさも、心のどこかにありました。

ところで、皆さんは「世界人助け指数」というものをご存知ですか。「世界人助け指数」とは「この一カ月の間に見知らぬ人、あるいは助けを必要としている見知らぬ人を助けたか」、「この一カ月の間に寄付をしたか」。「この一カ月の間にボランティアをしたか」という三項目について、世界百四十二ヶ国の十四万五千七百二人に対して行ったインタビュをもとに算出されたデータのことです。

二〇二四年の日本の人助け指数は二〇。なんとワースト二位で、アジア圏では、最下位という結果でした。私はこの結果を見たときにショックを受けました。なぜなら、日本人は親切で、気づかいのできる人ばかりで、当然このランキ

ングでも上位に入っていると思っていたからです。さらによく見てみると、「この一カ月の間に見知らぬ人を助けたか」という項目が二十四パーセントと、他国と比べて極めて低い結果となっていました。

では、本当に日本人は人助けができない人ばかりなのでしようか。私はそうは思いません。去年、京都駅で外国人の方にインタビュをしたときのことです。「日本人の良いところはどこですか。」という質問に対して、多くの人が「思いやりの心がある、親切」と答えられました。それに対し、「日本人の悪いところはどこですか。」という質問に対しては、「特にない」と答えた方が多かったです。「日本人は控えめすぎる。」と言われたのをはつきりと覚えています。つまり、「できない」のではなく、「していない」ということだと思えます。もしかすると、あのときバスに乗り合わせていた人も、気づいていたのに行動できなかったのかもかもしれません。

また、「控えめ」という言葉には、「思慮深い」、「慎重」などの良さもふくまれていると思います。

しかし、私をふくめ気づきを行動にできない人が多くいるはず。もちろん、寄付をするのも、ボランティアに参加するのも素敵な人助けです。けれども、もっと身近にできる人助けはありませんか。助けようかな、大丈夫かな、そう思いながら行動できなかったことはありませんか。

どんな小さな行動でも良い。その行動で助かる人がいるはず、さあ、あなたも勇気を出して、「小さな気づきを行動へ」

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「「やばい」は便利？」

京都府立福知山高等学校

附属中学校 2年

松本優衣



「やばい」この言葉を聞いてどんなイメージを思い浮かべますか。プラスのイメージ、もしくは、マイナスなイメージを思い浮かべる方もあるでしょう。私は、最近、この言葉をどんな時も無意識に口から出してしまっていると感じました。果たしてこの言葉で、丁寧に自分の伝えたい気持ちを細部まで表現し、相手に伝えることはできているのでしょうか。

私は去年の冬、吹奏楽部に入部後初めてアンサンブルコンテストに同級生と先輩の四人で出場しました。金賞という目標を掲げ、私たち四人は強弱や表現の部分までこだわり抜

き、毎日練習に励みました。結果はなんと金賞。私は驚き、湧き上がる高揚感をおさえることができませんでした。そして、私たちは知らぬ間に次の言葉を繰り返していました。「やばい！嬉しい」と。

一方で、今までにない深い感動を「この菓子やばい。美味しい」などと普段、乱雑に使う言葉で片付けるは寂しい。勿体ない。そんな少し寂然としなない心持ちでいたことも事実です。

それから私はすっかりしない感情と疑問をずっと抱き続けていました。普段とは格段に違ったあの感情の高ぶりを、適当に扱っている言葉にしかあてはめることが出来ないなんてやるせない。あの特別な感情をすべて残らず表現しきるにはどうしたらいいのかと。

このことが解決したのは今年の春。国語の授業でのことでした。先生が、「言葉を吟味する」ということを話されていた時、私はずっと考え、悩んでいたことが腑に落ちたのです。自分の言葉の引き出しの中から言葉を選んで話せたら、特別で繊細な未知なる感情のために、自分の中の語彙を増やしていく必要がある。そう実感しました。

今、アンサンブルコンテストの時の気持ちを人に伝えるとしたら「金賞という目標を達成できたことで万感胸に迫る思いです」と伝えます。当時の私は、初めてのコンテストで非常に緊張していました。金賞という結果が分かった瞬間に、ほっとした安堵感と信じられ

ない程の喜びや達成感を中心とした様々な思いがこみ上げてきたのを鮮明に覚えています。そんな私の思いを表現できるのが「万感胸に迫る」という言葉だと考えました。

このような体験から、言葉が持つ力の絶大さについて改めて感動しました。言葉の少しの違いで言葉の印象は随分変化します。助詞一つにしてもそうです。これ「が」いいのか、これ「で」いいのかという一文字の違いでさえ相手が受ける印象は異なってきました。

「やばい」という言葉は、プラスなイメージだと「秀逸」や「素晴らしい」「驚異的」などという意味なる一方で、マイナスなイメージだと「唾然とする」や「深刻」「危機的」などという意味になってしまいます。つまり、何通りもの意味を含む言葉なのです。

だからこそ、「やばい」という言葉はとても便利です。しかしその一方では、自分が思っていることとは違う意味やニュアンスで伝わってしまう、そんなおそれのある言葉でもあるのです。

私たちは、多方面で使ってしまう「やばい」という言葉を状況も鑑みずに、軽く使ってしまうがちです。しかし、幅広い意味をカバーしてしまうからこそ、繊細な部分までは表現しきれないことがあります。このようなことをなくすためには、やはり語彙を増やし、貯めた言葉を吟味しながら、日々使っていくということが必要なのです。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「商店街の未来を考える」

京都府立福知山高等学校

附属中学校 3年

畠 中 陽世璃



「商店街」。みなさんは自分の住んでいる地域にある商店街に行ったことがありますか。かつては地域の中心的な買い物、交流の場であった商店街は、今ではその賑わいを失い、衰退への一途を辿っています。

私が住んでいる福知山市の商店街も例外ではありません。衰退の背景には、郊外の大型ショッピングモールやコンビニエンスストアの進出、インターネット通販の普及、商店主の高齢化や後継者不足など様々な要因が挙げられます。その結果、商店街はいつしかシャッター通りへと変化してしまいました。しかしこうした現状を改善し、かつてのような活気を取り戻

すためには、現代のニーズに合わせた変化と工夫が必要だと私は考えます。

私は昨年、職場体験で福知山市の新町商店街を訪れました。商店街に足を踏み入れた瞬間、「肌寒くて薄暗い場所だな」と率直に感じたのを覚えています。職場体験では指導してくださった方と共に、福知山市の歴史を地域のの人に発信しようという企画を提案し、近隣の方々にチラシを配りました。私はその時「本当に来てくれるのだろうか」と少し不安を抱きながらも、期待を込めて待っていました。すると、私の予想に反して近所に住んでいる多くのお年寄りの方が足を運んでくださり、私達の企画したイベントは大盛況のうちに終わりました。その瞬間私は、商店街は以前ほどの活気はないけれども、それでも商店街を愛し残そうとしている人々がたくさんいるのだと感じました。だからこそ私は商店街の活気を取り戻したいと思ったのです。

では、どうすれば商店街を「行ってみたい」「楽しい」と思える場所にできるのでしょうか。私は若い世代が積極的に関わること、新しいアイデアが生まれるのではないかと考えます。例えば、地域の中学生や高校生と協力してイベントを企画することによって、若い世代の柔軟な発想やエネルギーを取り入れることができ、新しい形で地域の魅力を引き出すことができます。例えば、音楽ライブを開催したり、地元食材を使用した料理フェスを開いたり、昔ながらの縁日風の遊びを取り入れることで、子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しめる

場を作ることができるようでしょう。そうしたイベントは地域の繋がりを深め、参加者同士の交流を促進する重要な役割を果たします。また、商店街のお店を紹介する動画を学生が作成し、SNSで広めることで、地域の魅力を多くの人に発信することが可能です。動画を通じて、普段は注目されないような小さなお店や商店街の特長が広まり、外部からの関心を集めるきっかけとなります。さらに、空き店舗を活用し、若者が期間限定でお店を開く「チャレンジショップ」という仕組みがあれば、将来お店を開きたいと考えている人達にとって、実際に商売を体験する貴重な機会となります。これは商店街の活性化に繋がるだけでなく、将来的には地域に根ざした新たなビジネスが生まれる可能性もあります。こうした小さなチャレンジの積み重ねが商店街に新しい風を吹き込み、活気を取り戻す大きなきっかけになるはずです。商店街を守り、さらに発展させていくためには、大人だけでなく私達学生の力も必要です。私達ができることは、買い物に行くことや、イベントに積極的に参加すること、地域の情報に関心を持ち活動に協力することです。一人一人の小さな行動が積み重なれば、やがてそれが大きな力となり地域全体を支える大きな原動力になるでしょう。

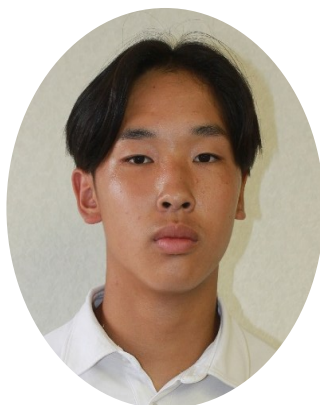
商店街は単なる買い物の場ではなく、人々の繋がりがや地域の温もりを感じられる貴重な存在です。その価値を今一度見直し、地域全体で支え合いながら未来へと引き継いでいく努力が今こそ求められているのではないのでしょうか。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「セミと僕」

亀岡市立東輝中学校 3年

山本 翔



夏が近づくと、僕の家の周りではセミの鳴き声がにぎやかになります。「ミンミンミン」「ジージー」と大きな声で鳴き続けるセミたち。うるさいと思うこともありませんが、僕はこの鳴き声を聞いたたびに、あることを考えさせられます。それは、「セミと人間はどう違うのか？」ということなんです。

セミは種類によって多少違いがありますが、多くは土の中で数年から十数年もの時間を幼虫として過ごします。暗くて狭い地中で、ずっとその時を待ち、やっと地上に出てきたと思ったら、成虫として生きられるのはたったの一週間。わず

か七日間の命の中で、精一杯鳴いて、仲間を見つければ、命をつなごうとします。その姿は、どこかへ逃げ、一所懸命で、僕の心に強く残りま

す。

僕たち人間はどうでしょうか。セミに比べれば、ずっと長い時間を生きることができません。学校へ行き、友達と遊び、家族と過ごしいろいろな経験を積み重ねていくことができます。でも、僕はときどき思うのです。こんなに長く生きられる僕たちは、その時間を本当に大切にできているのだろうか。

僕は、正直に言えば、ついスマホやゲームに夢中になって、やるべきことを後回しにしてしまうことがあります。勉強をしようと思っても、「あとでいいや」と思って、結局やらなかったり、家族との会話よりも画面を優先してしまったりします。時間はたくさんあると思っていても、つい無駄にしてしまうのかもしれない。でもセミは違います。命の終わりが近いことを知っているかのように、一日一日を全力で生きていくように見えます。

僕がそんなセミの生き方を意識するようになったのは、小学校の夏休みにセミの観察したことがきっかけでした。朝早く起きて、近くの公園に行き、セミが羽化する様子をじっと見つめました。夜の間に地面から出てきたセミの幼虫が、木に登り、ゆっくりと殻を破って透明な羽を広げていく。その過程はとても神秘的で、

まるで命の奇跡をみているようでした。

羽化したばかりのセミは、まだ体がやわらかくて飛ぶこともできません。でも、数時間かけて羽を乾かし、力を蓄えて、やがて空へと飛び立っていきます。その姿に、僕は「生きることの力強さ」を感じました。もし自分がセミだったら、たった一週間の命の中で、いったい何をやるだろうか。そう考えたとき、今の自分の生活を振り返らずにはいられませんでした。

もちろん、人間には人間の時間の流れ方や生き方があります。セミのように、全力で生き続けることがいつもできるわけではありません。ときには休んだり、立ち止まったりすることも大切です。でも限られた命の時間を無駄にしないという気持ちは、僕たち人間にとっても大事なことだと思います。

人生は一度きりです。そして、どんなに長くても「いつか終わる」という点では、セミと同じです。だからこそ、今の時間を大切にしたい。自分がやりたいこと、挑戦したいこと、誰かのためにできることに、少しずつでもいいから向き合っていきたいと思っています。

セミはただうるさい虫ではありません。僕にとっては、命の重みや時間の大切さを教えてくれる「小さな先生」のような存在です。これからも、セミの声を聞いたときに、今をどう生きるかを考え、自分に問いかけていきたいと思いたす。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「全ての人が幸せに

暮らすために」

舞鶴市立城北中学校 3年

亀井 志衣菜



私は舞鶴子どもコーラスに入っています。舞鶴子どもコーラスとは、ベネズエラで発足された「エルシステマ」という音楽教育プログラムの「家庭の経済状況や障害の有無にかかわらず、どんな子どもへも無償で提供する」という理念のもと活動している合唱団です。私は舞鶴子どもコーラスで、普段の練習や単独コンサート、舞鶴市民音楽劇などたくさんの貴重な体験をしました。今までの活動の中で、特に印象に残っていることは、昨年の七月に国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた東京や相馬の合唱団との合同の合唱祭です。そもそもエルシステマジャパンは、東日本大震災で被災した子どもたちが音

楽での経験を通して、自信や尊厳を回復し自分の人生を切り開いていく力を育むことを目的に、二〇一二年に相馬市で始まりました。震災から十四年経った今、相馬子どもコーラスには震災を経験していない小学生の子どももいます。ですが、音楽を通して、東日本大震災を語りつぎ、自信に満ち溢れ輝く姿はエルシステマジャパンの目的どおりでした。

また、東京の合唱団には目が見えない子がたくさんいます。今まで目が見えない人と関わる機会が無く、沢山苦労して大変そうというイメージがあり、どのように関われば良いのかわかりませんでした。ですが、実際に関わってみると、みんなとても明るく、私たちと何も変わりませんでした。私の話す関西弁に対してすごく喜んでくれたり、手を繋いで手の位置を確認すると、目が見えない子と一緒にハイタッチができたり、好きな曲の話や合唱についての話で一緒に盛り上がる事ができました。本当に楽しく関わることができました。交流の最後には、三つの合唱団での発表会がありました。その中で歌った曲の中に「あめつちのうた」という童声二部合唱組曲があります。この組曲の二曲目の「樹のうた」には前奏がありません。目が見える私たちは指揮を見て入るタイミングを掴んでいます。ですが、目が見えない私たちは指揮を見る事ができません。ではどうやって歌い出しをかわせているのでしょうか。実は、目の見えない子たちは指揮者の息を吸う音で歌い出しているのです。それを知った時、私は目が見えない子達の努力は本当にすごいと思いました。同時に、目が見える、見えないに関わらず少しの

工夫と一緒に楽しく頑張ることのできる音楽は、人と人とを繋げる大きな架け橋になるんだなど改めて実感しました。私は、この経験を通して目が見えない子達は、目か見えないというだけで私たちの何も変わらないと知ったし、目が見えないからといって暗い子は一人もおらず、みんな明るく楽しく音楽をしている「仲間」なんだなと思いました。

今年の舞鶴子どもコーラスは、カナダのエルシステマの方々との交流、大阪万博出演、さらには夏には東京、相馬、舞鶴の中から数名が韓国へ行く事が決まっています。貧困や地域社会とのつながりなど様々な問題がある今の時代でも音楽は世界共通の言葉です。音楽を通して、いろんな文化を学び、たくさんの人との関わり、みんなが支え合う事ができると思います。音楽に関わらず、人と繋がる方法はたくさんありますが、少なくとも、エルシステマの活動は多文化共生や、一人一人の個性を尊重することにつながっています。一人一人が色々な人の個性を認め合い、全ての人が幸せに暮らす事ができる世界になってほしいです。私はそんな世界を目指し、これからも舞鶴子どもコーラスの一員として活動していきます。「音楽が好き」という一つの共通点から集まった、学校も学年も性別も違う仲間たちのいるこの合唱団は私にとっての居場所です。そんな子どもコーラスがいままでみんなにとつての居場所であり続ける事、そして居場所が必要な子ども達のもとへ自分らしく過ごせる環境と幸せを届けられるように、精一杯頑張り、楽しく音楽を続けていきたいです。

第47回「少年の主張京都府大会」

講 評

京都府教育委員会の菊井でございます。本大会の講評を述べさせていただきます。

まずは、本日発表された中学生の皆さん、本当にお疲れさまでした。皆さんは、府内各地から寄せられた数多くの主張作文の中から選ばれ、この大会の舞台に立たれました。そのこと自体が大変素晴らしい成果であり、皆さんの努力と表現力が高く評価された証です。どうか自信と誇りをもって、これからの歩みに活かしてください。

今日の発表では、皆さん一人ひとりが自分の思いや考えをしっかりと伝えようとする姿勢が印象的でした。自分自身の体験や日常の気づきから社会への提言まで、幅広いテーマが取り上げられ、聞く人の心に深く響く内容ばかりでした。他者の発表を聴くことで得られた学びも、皆さんの今後の成長に大きく寄与することでしょう。

今年度の作品には、自分自身の内面を見つめ直し、そこから社会とのつながりを考えるような深い視点が多く見られました。家族や友人との関係の中で生まれた感情を丁寧に掘り下げ、そこから得た気づきを社会全体に広げていくような構成が印象的でした。また、社会課題に対して単なる問題提起にとどまらず、自分なりの関わり方や解決へのアプローチを模索する姿勢が感じられました。これは、まさに「主張」の本質であり、皆さんが自分の言葉で未来を切り拓こうとしている証です。

中学生の時期は、自分の価値観や社会への関心が芽生え、言葉にして伝えたいという意欲が高まる時期です。その一方で、思いがうまく形にならず、もどかしさを感じることもあるでしょう。しかし、今日の発表では、そのような葛藤を乗り越え、自分の考えをしっかりと構築し、堂々と伝える姿が見られました。皆さんの発表には、単なる情報の伝達ではなく、「伝えたい」という強い気持ちが込められており、その熱意が聞き手にしっかりと届いていました。

審査の観点としては、「中学生らしい感性と新鮮な視点があるか」「提案や提言に実現性や意欲が感じられるか」「論理的な構成と一貫性があるか」などが重要です。また、発表においては、「聞き手に共感や感動を与えるか」「説得力のある話し方か」「熱意と迫力が伝わるか」といった点が評価されます。皆さんの発表には、これらの要素がしっかりと備わっており、聞き手の心を動かす力がありました。

発表の中で、皆さんが伝えたいという思いをどう表現するか、話し方や表情、声の使い方などにも工夫が見られました。それは、単なる技術ではなく、聞き手に届けたいという真摯な気持ちの表れであり、非常に感動的でした。発表に向けて何度も練習を重ね、どうすれば自分の思いがより伝わるかを考え抜いたことが、発表の質を高める大きな要因となったのだと思います。

京都府知事賞を受賞された

亀岡市立育親学園 9年 秦 小羽音さん、誠におめでとうでございます。あなたの発表には、強い思いと深い洞察が込められており、内容・表現ともに素晴らしいものでした。また、各賞を受賞された皆さんも、同様に心からお祝い申し上げます。皆さんの主張は、同世代の仲間たちだけでなく、大人たちにも多くの気づきと感動を与えるものでした。

この経験が、皆さんの今後の学校生活や進路、そして社会での活躍につながることを願っています。自分の考えを言葉にして伝える力は、これからの時代を生きるうえでますます重要になっていきます。今日の経験を糧に、ぜひこれからも自分の思いを大切に、周囲と対話を重ねながら成長していきましょう。

会場にお集まりの保護者の皆さま、教育関係者やPTAの皆さま、最後まで御参加くださってありがとうございました。本日、発表をお聞きになって感じられた、中学生の思いや考えを、ぜひ様々な場面で共有していただければ幸いです。

最後になりましたが、本日しっかりと進行を進めてくれた二人の中学生と事務局の皆様、「少年の主張京都府大会」に関わってくださった皆様に感謝申し上げます。

本日の大会が、皆さんにとってかけがえのない一日となったことを願い、私の講評とさせていただきます。

京都府教育庁指導部学校教育課
総括指導主事 菊井 雅志

「少年の主張全国大会」

「わたしの主張2025」

内閣総理大臣賞受賞作文

「伝える」

鳥取県 鳥取市立桜ヶ丘中学校 三年

谷口 鉄馬

手を挙げた瞬間、みんなの息を吸う音が聞こえる。そして合唱が始まる。穏やかに始まった合唱が坂を登るように盛り上がっていく。僕はどんなふうにか歌ってほしいかを、手で、そして全身で表現する。音楽が弾ける。僕が好きな瞬間のひとつだ。

僕は中学校で、合唱コンクールの指揮者を三度務めた。今年の曲は「心の瞳」。練習はまだ始まったばかりだ。

僕が指揮をするのは、口唇口蓋裂という病気の影響がある。僕の唇では、歌う時に上手に発音をすることができないが、指揮者なら、みんなの役に立つことができるからだ。

僕は生まれた時、唇と上の顎が裂けていた。このままでは、母親の乳を吸うことができずに死んでしまう。成長しても唇の隙間から息が漏れてうまく話すことができない。僕は、生まれてすぐに手術を行なった。

顎と唇の隙間は一応塞がったものの、鳥取の病院では、それ以上の対応はできなかった。両

親が必死になって探した岡山の病院で、赤ちゃんの僕はまた手術を受けた。手術を何度も繰り返し、何年も通院を繰り返した。今でも年に一度、岡山に通っている。そのおかげで、今では食事を取ることもできるし、会話することもできるようになっていく。

しかし、人と話す時に心に引く掛かりがあるのも事実だ。発音がしにくいので、僕の言葉がどう受け止められているのか、相手の表情を気にしながら話すこともある。実際、何度も聞き返されることや、発音のことをからかわれることがあった。何度も聞き返される時は、相手に対して申し訳ない気持ちになる。からかわれた時は、馬鹿にされたことに苛立ちを覚える。何を言っても無駄だと感じて諦めるときがある。

小さい頃、口元にマスクをつけた僕のことを、見知らぬ女性が「かわいいねえ」と言った。しかし、マスクをとった僕の口元を見た女性は、僕のことを「かわいいそうな子」と言ったそうだ。「かわいい」と「かわいそう」。わずかな違いかもしれない。けれど母にとっては大きな違いだった。「かわいそう」という言葉に、「不幸な子」という意味を感じたのかもしれない。母は「鉄馬は可哀想な子じゃない！」と強く言い返したという。

そんな母も、「こんな体で産んでしまつてごめんね」と口にしたことがある。そのとき僕は「気にしてないし、大丈夫だ」としか返せなかったけれど、両親にとっても感謝しているのだ。この病気を治してくれるためにたくさんのごちそうをもらった。歯の矯正をするにも、僕の場合は特別な処置が必要なので、岡山の歯科医に毎月通わせてもらっている。ほとんどの場合、

父が送迎してくれる。こんなふうには、お金も、時間も、愛情もたくさんかけてくれた。僕の唇は、その証だから。

そんな僕が、中学一年生で合唱の指揮者になった。未経験のこの役割に強くひかれ、すぐ立候補した。実際にやってみると、どうやら歌い手に的確に伝わるか、手で伝える面白さを知った。自分なりに指揮をアレンジして、どの部分をどう歌ってほしいのか、楽しみながら伝えることで、今までにない達成感を得られた。正しい発音は一つだけ、人を感動させる音楽は無限にある。僕は、僕の指揮でそれを表現できることに、言いようのない喜びを覚えた。指揮することで表現できる世界の広さは、僕が歌うことで表現できる世界を大きく飛び越えていった。

口唇口蓋裂の子供たちは、話すこと、表現することを躊躇しがちだ。でも、自分のことを伝えたい、表現したいと強く思っている。諦めずに伝えてほしい。言葉でも、それ以外でも、自分を表現する方法は、きつとある。伝えたい思いを受け止めあえたら、病気や障害、色々な違いにかかわらず、お互いの世界はもっと広がるはずだ。

今年の合唱曲「心の瞳」はこう始まる。
「心の瞳で君を見つめれば、愛すること、それがどんなことだか、分りかけてきた」
言葉で言えない胸の暖かさを、見つめ合うことで伝えるという詩だ。

伝わる。きつと伝わる。だから伝えることを諦めないでほしい。言葉でも、音楽でも、見つめ合うことでも、自分らしいやり方が、きつとあるはずだ。

大会の様を You Tube でご覧いただけます。



2025年9月13日

第47回「少年の主張京都府大会」

主催 / (公社) 京都府青少年育成協会 京都府PTA協議会
京都市PTA連絡協議会 (独) 国立青少年振興機構

京都市国際交流会館

京都府立青少年海洋センター

マリンピア

～潮騒の間こえる宿泊研修施設～

Instagram

青少年団体から一般団体・各種サークル等の利用可能な宿泊施設(日帰り可能)

体育館・研修室・講堂・アスレチック・ボルダリング場・トレーニング場など。*レスリングマットもあります。

★ご家族での利用も可能です。事前にお問い合わせください。但し、宿泊は10名様以上が対象です。

■問合せ先 京都府立青少年海洋センター(マリンピア)
住所 宮津市宇田井 382 電話 0772-22-0501 Fax 0772-22-0503
URL <http://marinpia.jp/>



公益社団法人 京都府青少年育成協会

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町 104 番地の2 京都府庁西別館 3 階
TEL 075-417-0602 FAX 075-417-0603 e-mail kpyda@cello.ocn.ne.jp
URL <http://kyoto-seishonen.or.jp/>

